

米子市

職員採用案内

Yonago City Staff Recruitment Information



住んで楽しい
まちを創る

*Create
the future
of Yonago*





*Message from
the Mayor*

米子市長からの メッセージ

経済的な豊かさを実現しようと努力してきた20世紀から、癒しや人生の楽しみなど、心の豊かさも求められる21世紀となり、都市と自然の調和した米子市には大きなチャンスが巡ってきました。

米子市は中国地方最高峰の大山のふもと、日本海と中海に囲まれた自然豊かな地方都市です。この恵まれたフィールドは、仕事にレジャーに子育てに、米子の大きな可能性を示しており、市職員を目指すあなた自身が、挑戦し、自己実現を果たせるフィールドです。

私たちが目指す「住んで楽しいまち」、それは単なるスローガンではありません。ここに住む人々が自然との調和の中で様々な挑戦を行い、人生の充実

感を味わえるよう、本気で実現すべき21世紀の都市の姿だと考えます。

未来に向けた舞台は整いつつあります。令和9年度完成予定の「米子アリーナ」、自動運転バスの導入、米子駅周辺や米子城跡などの再整備、そして「書かない、待たない、行かない」窓口を目指した自治体DXの推進。これらは、まちの景色や市民の生活を一変させるビッグプロジェクトです。

市役所の仕事は、市民の命と暮らしを守る「使命」と、地図と歴史に残る仕事を成し遂げる「創造」の場です。これからの米子に必要なのは、「前例がないからこそ挑戦する」という意欲を持った人財です。

失敗を恐れる必要はありません。「自らの手で米子市のために新しい道を切り拓きたい！」皆さんの熱い情熱を求めています。

自信と希望を胸に、私たちと一緒に米子の新しい時代を創り上げましょう。あなたを、心からお待ちしています。

伊木 隆司

「住んで楽しいまち」を実現するための7つの目標

1

歩いて楽しい

交通基盤の整備の充実を図るとともに、「車」だけの生活から「公共交通・歩く」という選択が増えることで、人々が集い・憩い・多様な活動が繰り広げられるまちづくりを推進することにより、歩いて楽しいまち「米子」をめざします。

2

市民が主役・共生

市民の柔軟で自由な発想、活力を引き出し、共にまちづくりを推進するとともに、誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らせるよう、人権を尊重し、つながりを持って支え合う共生のまち「米子」をめざします。

3

教育・子育て

安心してこどもを生ま育てられる切れ目ない子育て支援や、すべてのこどもたちの最大限の成長をめざした教育に取り組むことにより、未来のまちづくりを担うこどもたちが、心豊かにのびのびと育つまち「米子」をめざします。

4

地産外商

地域資源や地域産業をいかしたまちづくりを推進し、地産外商の取り組み等によりビジネスチャンスを広げ、地域全体で所得の向上を図ること、稼げるまち「米子」をめざします。

なぜ米子市役所で働くのか？ 3つの理由

住んで楽しい まちをつくる、 唯一無二の仕事。

政策の企画から実行、そして住民からの「ありがとう」まで。最も身近な自治体だからこそ、あなたの仕事の成果がまちの笑顔に変わる瞬間を、直接、何度でも感じることができます。

あなたの『好き』を 活かし、 次々と新しい 『専門』に出会う。

数年ごとの異動は、専門知識と幅広い視野を身につけるためのステップです。一つの組織で、「転職したかのような」多様な分野を経験し、行政のゼネラリストとして成長できます。

10年後、20年後の 『安心』をもって 働ける。

転居を伴う転勤の心配はありません。安定した働き方のベースがあるからこそ、キャリアと余暇、家族との時間、その全てを充実させることができます。

5

歴史と文化

歴史・文化資源を保存・活用し、その価値や魅力を、市民はもとより多くの方と共有することにより、にぎわいがあって心豊かに暮らせるまち「米子」をめざします。

6

スポーツ健康

スポーツに親しむことができる環境づくりや健康増進、フレイル対策等に取り組むことにより、人生100年時代にも誰もがずっと元気で健康に暮らせるまち「米子」をめざします。

7

災害に強い

公共インフラ施設など生活環境の整備促進、また、市と市民が一丸となって防災・減災に取り組むことにより、快適で災害に強い安心・安全なまち「米子」をめざします。

「まちづくりビジョン」
について、
もっと知りたい人はこちら



city.yonago.lg.jp/45542.htm

「住んで楽しいまち」を創る、情熱の原動力

〔 一般事務 〕

● 防災安全課 ● 入庁1年目

- 休日の過ごし方
友人と遊ぶ、サウナ、寝る
- 米子の好きなおとこ
自然

民間企業や他の自治体など多くの選択肢がある中で、市を選んだ『決め手』は何でしたか？

地元である米子市で働きたいという強い思いに加え、長期的な視点で地域課題に向き合い、貢献できる点に大きな魅力を感じました。また、大学で学んだ知識(自然災害に関する危機管理マネジメント)を行政の現場で直接活かすことができる環境も、本市を志望した大きな決め手の一つです。

入庁前に抱いていた公務員のイメージと、実際に働いてみて感じた『ギャップ』は何ですか？

入庁前は、公務員の仕事に対して『堅くて淡々とした業務が多い』というイメージを持っていました。しかし実際に働いてみると、想像以上に職場の雰囲気が温かく、先輩方も丁寧に教えてくださる優しい方ばかりでした。おかげで相談もしやすく、安心して仕事に取り組むことができています。

これまでの業務の中で、『地域の役に立っている』と実感した瞬間や住民から感謝されたエピソードを教えてください。

防災の仕事は『備え』が中心のため、日々の成果が見えにくい側面があります。だからこそ、防災講話などで地域の方から直接感謝の言葉をいただくと、住民の皆さんの不安を少しでも軽減し、安心・安全につながる支援ができていのだと実感でき、大きなやりがいにつながります。



〔 一般事務 〕

● こども支援課 ● 入庁5年目

- 休日の過ごし方
同僚とゴルフ・スポーツ観戦
- 米子の好きなおとこ
過ごしやすいところ

民間企業や他の自治体など多くの選択肢がある中で、市を選んだ『決め手』は何でしたか？

元々、地元で働くことだけは決めていました。ただ、当時は『何をしたいか』という具体的な目標がなく、正直なところ『福利厚生や職場環境が整ってそうだから』という理由で市役所を選びました。きっかけは漠然としていたのですが、今は自分が携わった仕事がかの施策や市民サービスの向上につながることに、大きなやりがいと魅力を感じています。

入庁前に抱いていた公務員のイメージと、実際に働いてみて感じた『ギャップ』は何ですか？

入庁前は、静かな室内でキーボードを叩く音だけが響くような、静まり返った堅苦しい雰囲気をイメージしていました。しかし実際は、職員同士が日常的に声を掛け合い、和気あいあいと助け合いながら仕事をしており、とても良い意味でのギャップを感じました。

異動を経験されてみて、自身のキャリアやスキルにどのような変化がありましたか？市役所で働くことで、どのような新しい分野に挑戦できたと感じますか？

異動前後で関わる人や仕事が一変し、まるで転職したかのような感覚でした。以前は市民対応や法令に基づく業務が中心でしたが、現在は研修講師を務めたり、プロジェクトチームに参加するなど、全く異なる経験をしています。新しい業務を通じて、自分の知らなかった長所や短所に気づくことができました。異動を重ねて様々な分野に精通することで、自身のポテンシャルを高められる環境だと実感しています。



〔 土木技師 〕

● 都市整備課 ● 入庁11年目

● 休日の過ごし方

ソフトテニス（今年の中国大会成年の部で準優勝！）

● 米子の好きなところ

自転車で市内を散策できる場所（自然やサイクリングロードもあり、走っていて気持ちいいです。）

民間企業や他の自治体など多くの選択肢がある中で、市を選んだ『決め手』は何でしたか？

九州出身ですが、大学時代を過ごした鳥取県の中でも、米子が一番住みやすいと感じていました。前職の民間企業では、主に道路設計を担当していましたが、道路設計だけでなく河川や公園など幅広い分野に携わり、自分の仕事が地域への貢献に直結していると実感しながらスキルアップしたいと考えたのが決め手です。また、前職では長時間残業が常態化していましたが、ここならワークライフバランスを保って働けると考えました。

入庁前に抱いていた公務員のイメージと、実際に働いてみて感じた『ギャップ』は何ですか？

入庁前は、発注者としての事務仕事を中心で、高度な専門知識は不要だと思っていました。しかし実際は、構造令や施工指針への深い理解が必要で、業者の方々と共に技術的な検討を行い、的確な指示を出すことが求められます。また、災害時には夜間対応などで民間時代以上に多忙なこともあります。市民の安全を直接守る仕事に、大きなやりがいを感じています。

ご自身の手掛けた仕事の中で、特に印象に残っているものと、それが地域や住民の生活に貢献している『やりがい』を感じた瞬間を教えてください。

特に印象に残っているのは、大雨による道路冠水対策の工事です。様々な案を検討して完成した後、現地を確認すると冠水が解消され、住民の方からも「安心して過ごせるようになった」と感謝の言葉をいただきました。自分が携わった事業が地域の暮らしを支え、多くの人々の役に立っていると実感できること、そして仕事が目に見える形で残ることが一番のやりがいです。



〔 保育士 〕

● ねむの木保育園 ● 入庁2年目

● 休日の過ごし方

推し活（Snow Man）、旅行、ベーグル店巡り

● 米子の好きなところ

食べ物・水がおいしい、住みやすい

民間企業や他の自治体など多くの選択肢がある中で、市を選んだ『決め手』は何でしたか？

生まれ育った地元・米子市で働きたいという思いが前提にありました。その中で公務員を選んだ一番の決め手は、将来にわたって安心して働ける『安定性』と『福利厚生』です。また、公務員ならではの『異動』も魅力でした。一つの園に留まらず、数年ごとに環境を変えて多様な保育を学べることは、長くモチベーションを保って働く上で最適な環境だと感じています。

入庁前に抱いていた公務員のイメージと、実際に働いてみて感じた『ギャップ』は何ですか？

入庁前は手書き文化のイメージがありましたが、実際はPC導入が進んでおり、事務業務が効率的で驚きました。また、国の基準以上の手厚い職員配置により、子ども一人ひとりとじっくり向き合える点も魅力です。さらに、サークル活動などで職種を超えた交流が盛んなことも、大きな組織である市役所ならではの楽しさだと感じています。

休暇の取りやすさなど働き心地はどうですか？
公務員の安定性は、保育にどう活かしていますか？

ワークライフバランスはとても充実しています。土曜出勤の際は平日に振替休日が取れるため、推しのライブや旅行など、自分の時間をしっかり確保できています。メリハリをつけて働けるのは、公務員という安定した基盤があるからこそ。プライベートでのリフレッシュが生む心の余裕が、結果として質の高い保育に繋がっていると感じます。



「住んで楽しいまち」を拓く、変革の推進力

〔 一般事務 〕

- まちづくり企画課 ● 入庁5年目
- 民間企業経験者

前職の経験やキャリアを持つ中で、最終的に『市役所』で働くことを選んだ決め手と公務員になることで得たメリットは何ですか？

民間企業で15年以上働き、良い仲間に恵まれ充実していましたが、転機は30代後半での子どもの誕生でした。昇進が決まった矢先でしたが、全国転勤のある会社だったため、単身赴任か家族帯同か、妻の仕事や子どもの環境はどうか、将来への悩みが尽きませんでした。

そんな時、公務員の中途採用を知り、『このチャンス逃してはいけない』と直感しました。転勤のない生活を家族と続ける可能性を見出し、挑戦を決意したのです。入庁して5年、『家族との今後』を心配せずに過ごせること、それが私が得た最大のメリットだと感じています。

前職と比較して、市役所で『違い』を感じたのはどんな点ですか？ また、前職の経験が活かしていると感じる瞬間を教えてください。

決定的な違いは『意思決定の過程』です。案内1通でも多くの決裁が必要な慎重さに最初は戸惑いましたが、職員個人の動きが全て『市として』の動きになるため、市民に対する行動として慎重さが求められると理解しました。

活きているのは『相手に伝わるコミュニケーション』です。入庁前に感じた『市役所の言葉は分かりにくい』という感覚を忘れず、専門用語を使わずに噛み砕いて説明することや、相手の理解度を確認しながら話を進めるなど、民間時代に培った『伝える力』を実践しています。

転職後、ご自身のワークライフバランスや家族との時間はどのように変化しましたか？ 公務員という安定した環境で働くことの安心感についてお聞かせください。

最初の回答で触れた通り、転職の決め手はまさに『家族との時間』でした。転職後は勤務のリズムが安定して予定が非常に立てやすく、休暇も取りやすいため、子どもの行事にはほぼ全て夫婦揃って参加しています。

また、庁内でソフトバレー同好会を立ち上げ、週1回汗を流してリフレッシュしています。職員の多くが近隣に住んでいるため集まりやすく、公私ともに交流が盛んです。安定した勤務体系と職住近接の環境が、今のワークライフバランスを支えていると実感し、充実した日々を過ごしています。



自身の仕事が、どの程度、市民生活に影響していると感じますか？ 仕事の『やりがい』について具体的にお聞かせください。

税の徴収や給付など、市民生活に直結する業務に携わると、その影響力の大きさに身が引き締まります。

やりがいは、やはり市民からの感謝です。分かりやすい説明を心がけ、それが伝わったときにいただける『よくわかった、ありがとう』という言葉は勇気になります。政策的な業務では、国との折衝や議会对応などプレッシャーのかかる場面もありますが、それも含めて多種多様な業務が存在するのが市役所です。幅広いフィールドの中で、自分のやりがいを感じられる仕事がきっと見つかると思います。



〔 一般事務 〕

- 秘書広報課 ● 入庁 6 年目
- 行政経験者

前職の経験やキャリアを持つ中で、最終的に『市役所』で働くことを選んだ決め手と公務員になることで得たメリットは何ですか？

『通勤時間の短さ』と『異動しても市内』というのが決め手でした。前職は関東地方で8年間県職員をしていましたが、異動先によっては通勤に片道1時間以上かかり、場合によっては引越しが必要になることもありました。

結婚を機に退職・移住し、子どもにも恵まれ充実していましたが、一方でもう一度キャリアを積みたいという思いもあったため、前職の経験を活かせる行政職での再就職を決意しました。『仕事も家庭も充実させたい』『子どもとの時間も大切にしたい』という思いから、遠距離通勤や転勤の心配がない米子市役所を志望しました。実際に働いてみても、将来の見通しが立てやすいので、これは大きなメリットだと感じています。



前職と比較して、市役所で『違い』を感じたのはどんな点ですか？ また、前職の経験が活かしていると感じる瞬間を教えてください。

大きな違いは感じませんが、一つ挙げるなら、窓口業務などで住民の方と接する機会が多いところでしょうか。お話を伺いながら状況を想像し、伝わりやすい言葉に変換することを、より意識するようになりました。

また、前職の経験が活かせることは多く、人事異動への適応もその一つです。県の異動は勤務地も仕事内容も大きく変わり、転職のような印象でした。その都度、新たな制度を学びスキルを身に付けてきた経験は自信になり、市役所での勤務も『異動の延長』のようなイメージで、大きなギャップもなくスタートできたと感じています。

前職と比較して、市役所で働くことで、地域課題の解決や政策の実現において、どのようなスピード感や裁量の違いを感じますか？

前職とは組織の規模が異なりますので、意思決定にかかる時間、例えば決裁のスピードも市役所の方がやや速いように感じます。

また、トップとの距離の近さも違いの一つです。市長協議などで、担当する業務の説明をしたり、市長からお話を伺う機会があり、意思決定の背景にある思いや政策への考え方を学ぶことができます。市がめざす方向性を肌で感じながら仕事に携われることは、自身の成長につながる貴重な経験だと感じています。

転勤がないことは、ご自身の長期的なキャリア形成や生活の基盤にどのような良い影響を与えていますか？

転勤がなく、将来の生活の見通しが立てやすい安定感は、やはり何よりの魅力です。新卒の就職時にはあまり意識していませんでしたが、子どもが生まれたことで、家族にかかる負担や影響を真剣に考えるようになりました。

市役所での勤務は、遠距離通勤の体力的な負担や、異動に伴う引越しといった心配がないため、生活面での安心感が非常に大きいです。生活の安定は仕事への意欲にもプラスに働き、新たなスキル取得に取り組む心の余裕も生まれています。再就職を決意した時に思い描いた、理想的なワークライフバランスを実現できていると感じています。



分野別で見る、まちづくりへの貢献

総務・政策

～まちの可能性をデザインする、未来の羅針盤～

- 市の未来戦略と政策の立案
- 組織と予算のマネジメント
- 市民参画と強靱な防災基盤づくり

活躍する職種

【一般事務】・技術職（土木など）

市民生活

～日常の安心を創る、街のコンシェルジュ～

- ライフステージを通じた手続きとサポート
- 快適な生活環境の整備と未来への挑戦
- 市民サービスの基盤となる財源の確保

活躍する職種

【一般事務】・技術職（機械・電気など）

こども・教育

～次世代の笑顔を育み、未来への可能性を開く～

- こどもの成長を支えるトータルサポート
- 未来を担う人材を育む教育戦略
- 市民の学びと教育環境の整備

活躍する職種

【一般事務】・専門職（保育士・保健師など）

健康・福祉

～誰もが自分らしく暮らせる、命と生活のセーフティネット～

- 困りごとを抱える住民に対する生活基盤の確保と自立支援
- 世代・ニーズに合わせた地域包括ケアの推進
- 市民一人ひとりの健康寿命の延伸

活躍する職種

【一般事務】・専門職（保健師など）

経済・文化

～まちに活力を生み出す、地域経済のプロデューサー～

- 産業を育て、持続可能な地域経済の確立
- 交流人口を増やし、地域に賑わいを創出
- 地域の歴史・文化資源の保護と継承

活躍する職種

【一般事務】・技術職（土木など）

インフラ

～100年先の暮らしを守る、まちの基盤デザイナー～

- 計画とデザインによる未来都市の創造
- 暮らしを支える基盤施設の整備と管理
- 誰もが安心して暮らせる住環境づくり

活躍する職種

【一般事務】・技術職（土木・建築・機械・電気）

一般事務職はこれら全分野をローテーションしながら、まちづくりのプロへと成長します。
技術職・専門職は、各専門分野を中心に、関連分野でも活躍します。

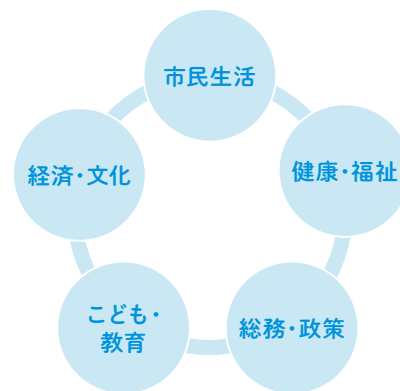


行政のゼネラリストへ

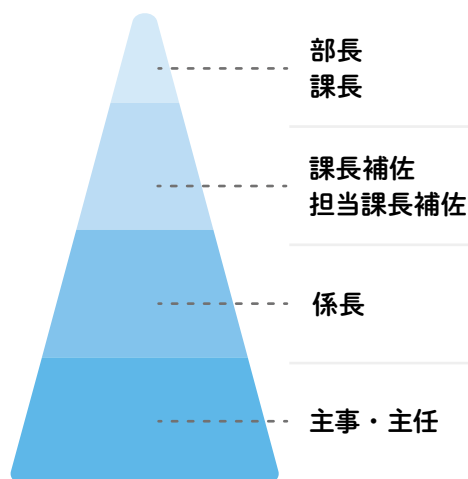
あなたを育てる、成長のロードマップ

〔ジョブローテーションの目的〕

ジョブローテーションは、あなたに『行政のゼネラリスト』として、一つの組織にしながら多様な専門分野に挑戦できる機会となります。3～4年を標準に様々な分野の業務を経験することで、幅広い視野と複合的なスキルを習得し、あなたの適性・希望を見極めながら次なるキャリアステップへ進みます。多岐にわたる部署での経験を通じて、まちづくり全体に貢献できる人材へと成長してください。



キャリアデザイン



〔期待される役割〕

部・課を統率する責任者

入庁30年目～

担当をまとめる責任者

入庁20年目～

中核となる業務リーダー

入庁10年目～

職場に貢献するプレイヤー

入庁1年目～

〔研修制度〕

課長研修

担当課長補佐研修

係長研修

1・2・3・5年目研修

職場研修
(OJT)

+

特別研修

+

派遣研修

※年数は一例です。試験区分・職歴等によっても異なります。

米子市の求める人物像

米子を愛し、市民・仲間から信頼され、自ら考え行動する人

米子を **愛** し

- 地域と市民に貢献する仕事に誇りと自信を持ち、主体的に自らの役割を果たす。
- 市民の目線で考え、市民と連携・協力する。
- 地域に対する愛着を持ち、ボランティア活動等を通じて、地域でも活躍する。

市民・仲間から **信頼** され

- 全体の奉仕者として 高い倫理感と使命感を持つ。
- コンプライアンス（＝役割発揮）を常に意識し、市民に説明責任を果たす。
- 相手の言葉を丁寧に聴き、相手に寄り添う姿勢で向き合う。

自ら考え **行動** する人

- 現状にとどまらず、常に自己啓発に努め、成長していく。
- 常に前向きで改善意識を持ち、課題に対して積極的にチャレンジする。
- 時代を先取りして幅広い視点から積極的に改善や改革に取り組む。

長期的な『安心』につながる給与制度

長期的な『安心』につながる給与制度

● 初任給

区分	大学卒業程度	短大卒業程度	高校卒業程度	社会人経験者採用
初任給	232,000円～	216,000円～	200,300円～	247,500円～

あなたのキャリアを、100%評価

民間企業等の経験年数

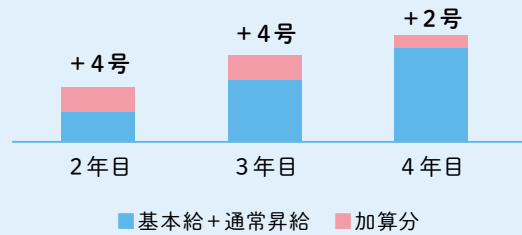


市役所での経験年数

前職の経験年数*を10割(100%)換算して初任給に加算。
培ったスキルと時間を、正當に評価します。

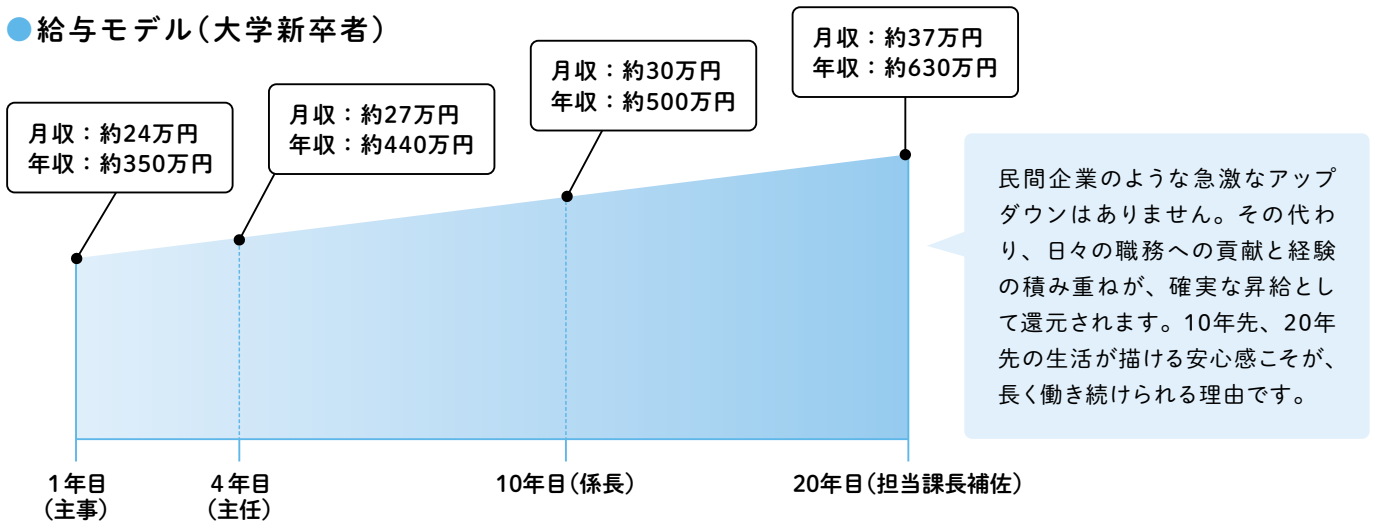
※常勤・正規職員（正社員）としての経験年数を対象とします。

スタートダッシュを応援



採用後3回目の昇給まで、通常の昇給に加えて
特別加算を実施しています。

● 給与モデル(大学新卒者)



※モデルは、手当（時間外勤務手当を除く固定的な手当）を含んだ「総支給額の目安」であり、「手取り」ではありません。

● 諸手当

手 当	金 額	内 容
通勤手当	1,700円～ 55,000円	交通機関または交通用具を使用している職員に対して支給（距離や運賃に応じて支給）
住居手当	16,000円～ 28,000円	月額16,000円を超える家賃を支払っている職員に対して支給
扶養手当	1人あたり13,000円／ 6,500円	扶養親族のある職員に対して支給（子：13,000円／父母等：6,500円）
期末・勤勉手当	年間4.65月分	年2回支給（6月・12月）

※このページは令和8年1月1日時点の制度を基に作成したものです。給与改定等により変更となる場合があります。

ワークライフバランスの実現

仕事もプライベートも充実

●メリハリのある働き方

時間外・休日勤務平均時間数

12.9時間／月

令和6年度実績

限られた時間で成果を出す。
それがプロの働き方。



有給休暇平均取得日数

14.8日／年

令和6年度実績

『休む』ことも仕事の一部。
気兼ねなく取得できる風土です。



●ライフステージが変わっても安心。両立を支える柔軟な制度

育児休業取得率

女性：100%

男性：70%

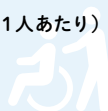
令和6年度実績

男性の育休取得も、
もはや当たり前。



育児・介護支援制度

- 子の看護休暇(年5日/1人あたり)
- 育児短時間勤務制度
- 子育て部分休暇・休業
- 短期介護休暇(年5日/1人あたり)
- 介護休暇



柔軟な勤務制度

- 在宅勤務
自宅からリモートが可能
- 勤務時間の割振り変更
7:00～18:45の間で
勤務時間の変更が可能



●主な休暇制度

※このほかにも休暇制度があり、様々なライフイベントに対応しています。

休暇	名称	内容
年次有給休暇		1の年度において20日付与(20日を限度に翌年へ繰越可)
病気休暇	一般傷病による療養休暇	連続する90日以内
特別休暇	夏季休暇	連続する4日以内(分割取得可)
	結婚休暇	連続する7日以内(土日祝を除く)
	出産休暇	産前8週間(多胎妊娠の場合は14週間)、産後8週間
	妻の出産休暇	2日(妻の出産のための入院等の日から、出産後2週の間)
	子の養育休暇	5日(出産にかかる子を養育する場合は出生後1年の間、小学校就学前の子を養育する場合には産前8週間、出生後1年の間)
	子の看護のための休暇	子1人につき1の年度において5日(小学校第6学年までの子)
	不妊治療による療養休暇	1年間(延長可)
育児休業		子の3歳の誕生日の前日まで
介護休暇		配偶者、父母、子などの介護をする場合、6月の範囲内(3回まで分割可)

余暇の充実が、仕事の活力に。メリハリのある市役所ライフを。

安定した働き方のベースがあるからこそ、仕事への活力も、
人生の楽しみも、その全てを充実させることができます。

充実の生活・健康サポート

長く、安心して活躍するために

〔健康管理〕

- 職員健康診断(年1回)
- 人間ドック受診の助成(35歳以上対象)
- がん検診、歯科検診等の助成
- 保健師による健康相談



● メンター制度

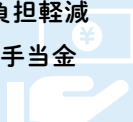
新規採用職員一人一人に先輩職員がメンターとして付き、職員になっての戸惑いや不安感を軽減し、一緒に仕事をしていく仲間として支えています。もちろん職場全体でもバックアップするので、安心して業務に取り組むことができます。

〔福利厚生・共済制度〕

守る

医療も、出産・育児も、万が一の出費をカバー

- 医療費の自己負担軽減
- 出産・育児休業手当金
- 傷病手当金



貯める

将来の資産形成をサポート

- 共済貯金
- 貸付制度(住宅・教育)
- 退職年金積立



楽しむ

オフタイムを賢く遊ぶ

- 宿泊施設利用助成
- 文化体育施設等利用助成
- 各種イベント

〔互助会・職員交流〕

部署の垣根を越えた、オフの交流

互助会イベントやサークル活動を通じて、普段は関わりの少ない他部署の職員とも自然と仲良くなれます。

この『横のつながり』が、仕事の円滑な連携にも生きています。



▼ 互助会イベント(ボーリング)



▲ 互助会イベント(ボーリング)



▲ やんちゃよさこい



▲ がいな祭りパレード

データで見る米子市職員

● 基本情報 ※令和7年4月1日時点

〔 基本の勤務時間 〕

1日の勤務時間	始業	終業	休憩時間
7時間45分	8:30	17:15	60分

〔 基本の休日 〕

土曜日、日曜日、祝日、
年末年始(12月29日～1月3日)

〔 職員数 (フルタイム) 〕

 **950人**

〔 職員の男女比 〕

 男性 **51.5%**
 女性 **48.5%**

〔 平均年齢 〕

  **42歳**

〔 管理職の女性比率 〕

 **26.1%**

● 採用に関するデータ ※令和5～7年度採用者

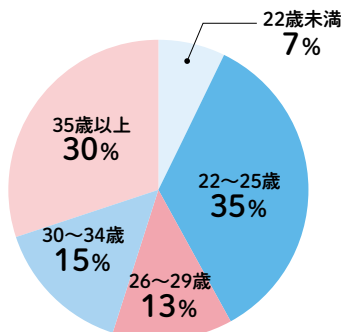
〔 採用者の男女比 〕

 男性 **42.2%**
 女性 **57.8%**

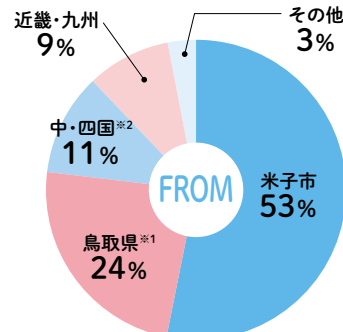
〔 定着率 〕

  **98.4%**

〔 採用者の年齢 〕



〔 採用者の出身地 〕



※1: 米子市除く
※2: 鳥取県除く

● 働きやすさに関するデータ ※令和6年度実績

〔 時間外・休日勤務平均時間数 〕

 **12.9時間/月**

〔 有給休暇平均取得日数 〕

 **14.8日/年**

〔 育児休業取得率 〕

 男性 **70%**
 女性 **100%**

〔 育児休業平均承認日数 〕

 男性 約**100日**
 女性 約**634日**



採用試験が大きく変わります

より早く、より自由に。あなたの挑戦を後押しする2つのchange

POINT 1

3月募集開始！いち早く合格へ。

従来の試験日程を刷新し、大学卒業程度の試験は3月から募集を開始します。
早期の合格決定により、採用までの時間を有効に使えます。

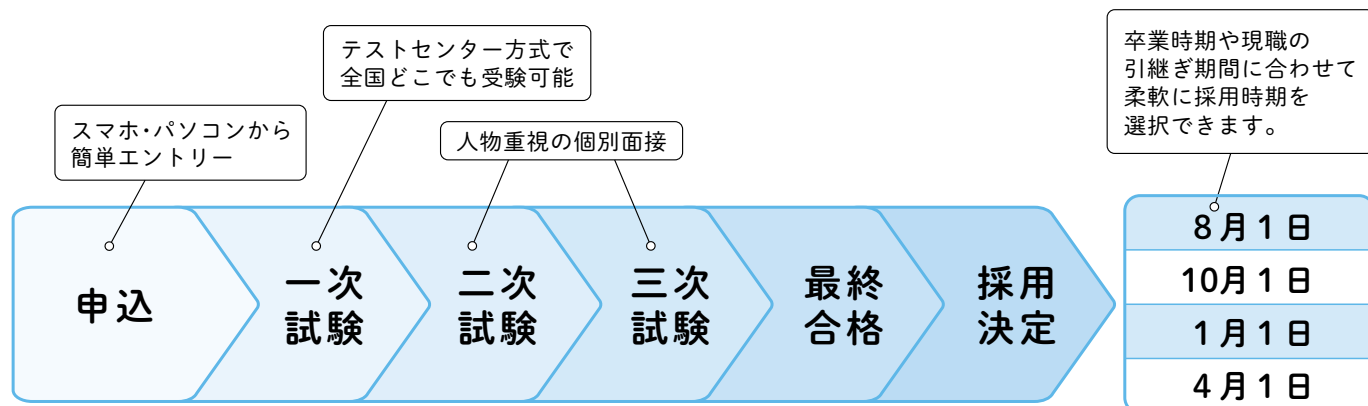
POINT 2

自分で採用日を選べる。

最終合格後は、ご自身の卒業時期や現職の引継ぎ期間に合わせて、
最大4つの採用日（8月・10月・1月・4月）から選択可能です。
既卒の方や転職希望者の方も、空白期間を作らずに活躍できます。

※大学卒業程度および社会人経験者採用の試験が対象です。 ※試験日程により、選択できる採用日が異なります。

採用試験ロードマップ



※高校卒業程度の一次試験は会場実施です。 ※高校卒業程度は二次試験までです。

気になる疑問にお答えします！

Q

試験区分の「大学卒業程度」は、大卒でないと受験できませんか？

A

いいえ、学歴に関係なく受験できます。「大学卒業程度」等の区分は、あくまで試験問題の難易度の目安です。学歴要件ではありませんので、年齢要件等を満たしていれば、どなたでもチャレンジしていただけます。

Q

市外の出身・在住ですが、選考で不利になりますか？

A

有利不利は一切ありません。出身地や居住地が選考に影響することはなく、実際に市外出身の職員も数多く活躍しています。米子市への熱意があれば、どなたでも歓迎します。

Q

民間企業との併願は可能ですか？

A

もちろん可能です。募集の早期化は、民間企業の就職活動と並行してチャレンジしていただきやすくするためでもあります。ぜひ広い視野で進路を検討してください。

Q

同一年度内に実施される試験を、複数回受験(併願)することはできますか？

A

できません。日程や職種に関わらず、同一年度内の受験はお一人様1回のみです。不合格や辞退となった場合、その後の日程で再受験することはできませんのでご注意ください。

Q

希望する部署に配属されますか？

A

本人の意向や適性を最大限考慮します。必ずしも第一希望とは限りませんが、入庁後も年に一度、異動等の希望申告制度があり、職員の意欲を尊重する体制を整えています。

募集要項

試験区分	受験資格	試験科目(概要)
大学卒業程度	【年齢要件】 平成8年4月2日から平成17年4月1日までに生まれた人	【第1次試験】SPI3（テストセンター方式） 【第2次試験】面接試験・集団討論・専門試験 【第3次試験】面接試験
社会人経験者採用	【年齢要件】 昭和52年4月2日から平成8年4月1日までに生まれた人 【職歴要件】 最終学歴ごとに求める職務経験年数(通算)を有している人 大学卒業以上…3年以上／短大卒業…5年以上／高校卒業…7年以上／中学卒業…10年以上	【第1次試験】SPI3（テストセンター方式） 【第2次試験】面接試験・集団討論・専門試験 【第3次試験】面接試験
短大卒業程度	【年齢要件】 昭和62年4月2日から平成19年4月1日までに生まれた人	【第1次試験】基礎能力試験（テストセンター方式） 【第2次試験】面接試験・実技試験・専門試験 【第3次試験】面接試験
高校卒業程度	【年齢要件】 平成17年4月2日から平成21年4月1日までに生まれた人	【第1次試験】基礎能力試験(会場実施)・面接試験 【第2次試験】面接試験
特定業務職	【年齢要件】 昭和42年4月2日以降に生まれた人	【第1次試験】書類選考 【第2次試験】教養試験・面接試験 【第3次試験】面接試験

※第2次試験の試験科目は、職種によって異なります。
※これらの要件に加え、資格要件を設ける職種もあります。

試験日程

試験区分	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
大学卒業程度 (1回目)	募集期間 3月1日～			最終合格発表 6月下旬					
社会人経験者 採用(1回目)		募集期間 4月1日～			最終合格発表 7月下旬				
大学卒業程度 (2回目)						募集期間 8月1日～			最終合格発表 11月下旬
社会人経験者 採用(2回目)						募集期間 8月1日～			最終合格発表 11月下旬
短大卒業程度				募集期間 6月1日～			最終合格発表 9月下旬		
高校卒業程度					募集期間 7月1日～		最終合格発表 9月下旬		
特定業務職				募集期間 6月1日～			最終合格発表 9月下旬		

10年後も、20年後も、
この街とともに。



エントリー・詳細情報の確認はこちら



職員インタビュー記事・動画も公開中

お問い合わせ | 米子市 職員課

〒683-8686 鳥取県米子市加茂町1丁目1番地 TEL: 0859-23-5341 FAX: 0859-23-5390
Eメール: shokuin@city.yonago.lg.jp WEB: <https://www.city.yonago.lg.jp/10371.htm>

